

須賀川市立義務教育学校「**稲田学園**」学園だより

と う う ん
稲 雲

令和7年度 第7号

令和7年7月15日発行

発行者：校長 田中 朗裕



○ **1学期も残り3日になりました!!**

7月18日（金）に1学期の終業式が行われます。1学期は72日間で、PTA 親子奉仕作業、運動会や鼓笛パレード、中体連など多くの行事がありました。それぞれの行事における保護者の皆様のご理解とご協力に感謝しております。また、72日間大きな事故がなく、安全に過ごせたことにも感謝の気持ちでいっぱいです。

今、子どもたちは、夏休みとその後の2学期を充実させるために、1学期を振り返り、反省やまとめをしているところです。夏休みは、子どもたちが家庭や地域に帰る時間になりますので、安全・安心で充実した夏休みになるように、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。夏休みは、7月19日（土）から8月24日（日）までの37日間です。

○ **「キャリア教育」を実施しました**

6月25日（水）に、7年生が「会津中央乳業」と「久保木畳店」に見学に行ってきました。直接職場を訪問し、様々な説明を聞き、間近で見学をすることができ、生徒たちは多くの学びをしてきたようです。また、8年生は6月25日（水）と26日（木）の2日間「職場体験」を行いました。今年度は、須賀川市・鏡石町の10の事業所で職場体験を行いました。生徒たちは、2日間を通して、働くことの楽しさや難しさを実感しながら、充実した体験をすることができました。この経験は、今後の進路選択に向けて貴重な時間となったと思います。各事業所の皆様のご理解とご協力、誠にありがとうございました。



【7年生の職業見学の様子】



【8年生の職場体験の様子】

○ **いよいよ終盤を迎えました!!**

7月3日（木）に、6年生のふるさと納税返礼品を考えるプロジェクトの5回目の授業が行われました。はじめに須賀川市長とスカキング（須賀川市のシルエット怪獣）を使ったグッズについて話し合いました。その後、市内にある山本電気株式会社の最新型フードプロセッサーを使ってハンバーグ作りに挑戦しました。また、プロのカメラマンの方を講師に迎え、「魅せる写真」の撮り方なども学びました。次回はいよいよ返礼品のPRのためのホームページ作りとなります。



○「喫煙防止教室」を実施しました

7月7日（月）に、7年生を対象に「喫煙防止教室」を実施しました。講師に病院の先生をお迎えし、「タバコはなぜ体に悪いのか」という演題で講演をしていただきました。また、須賀川市の保健師さんから、「SUKAGAWA ウルトラアクション6」の中の「禁煙」の取組についての紹介もいただきました。最後に代表生徒がお礼のことばを述べ、喫煙が心身の健康に及ぼす害について理解を深めることができ、今後に生かしたいという言葉が聞かれました。



○全員の願いごとが叶いますように…

7月7日（月）に前期課程で「七夕集会」が開かれました。担当は図書委員会の児童で、はじめに七夕に関するクイズが10問出題されました。正解すると「イエーイ」「やったー」の歓声があがりました。後半は各学年の代表児童による願いごと発表がありました。自分の願いごとではなくて、家族や稲田学園のみんなが幸せになる願いごとを発表した人もいました。廊下等に各自の願いごとを書いた短冊が飾られましたが、その中には「おおきくなったら、先生みたいな先生になりたい。」という嬉しい短冊もありました。



随 想 『傍楽』 ～何と読むと思いますか？～

先日、7年生は職業見学、8年生は2日間の職場体験に行きました。キャリア教育の一環で、働く場所や働いている人を見たり、その人たちの話を聞いたりしながら「働く」ことの意義や大変さについての理解を深めてきました。そんな生徒たちの姿を見て思い出したことがあるので、書かせていただきます。上の『傍楽』は、『はたらく』と読みます。もちろん当て字です。本当ならば『働く』と書きます。『傍』は、「はた」と読み、「かたわら」、「～のそば」という意味があります。そして『楽』には、「楽だ」、「楽しい」という意味があります。その2つの意味を合わせて、「誰かが『働く』のは、自分の『傍（はた）』にいる人を『楽』にさせたり、『楽しい』気持ちにさせたりするためなのだ。」ということでした。この話を聞いたとき、「なるほど。」と感心しました。もしも、働く人たちの一人一人が心からそう思って働くことができれば、少くく辛い仕事でもがんばれる気がすると思いました。自分がんばることで、誰かを楽しい気持ちにしたり、幸せにしたりすることができることも働くことのモチベーションになるとも思いました。本校の児童生徒を含め、私たちには、日々やるべきことがたくさんあります。自分のすぐ傍にいる誰かのことを思いやって、一生懸命に『傍楽』ことができる人がたくさんいたら、素晴らしい学校になったり、温かい社会になったりすると思うのです。生徒たちが職場体験で働く姿を見て、この言葉を思い出し、自分の『働く姿』を振り返りました。もちろん多くの方は、自分の夢や希望、「やりがい」のために働くのだと思いますが、私も、子どもたちに働く姿を見せることのできる大人の一人として、誰かのために働く（傍楽）人になりたいと改めて思いました。